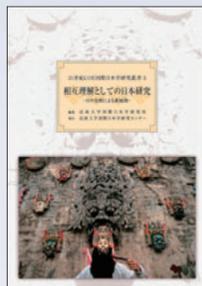
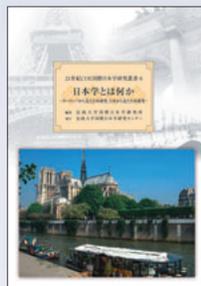


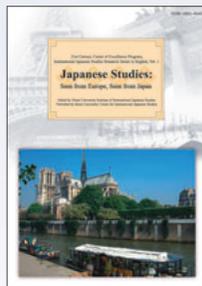
- 21世紀COE国際日本学叢書5
相互理解としての日本研究
— 日中比較による新展開 —



- 21世紀COE国際日本学叢書6
日本学とは何か
— ヨーロッパから見た日本研究、
日本から見た日本研究 —



- 21世紀COE国際日本学叢書6
英語版
Japanese Studies:
Seen from Europe, Seen from Japan



- 21世紀COE国際日本学叢書7
ことばとことばを越えるもの



- ニュースレター No.9



- ニュースレター No.10

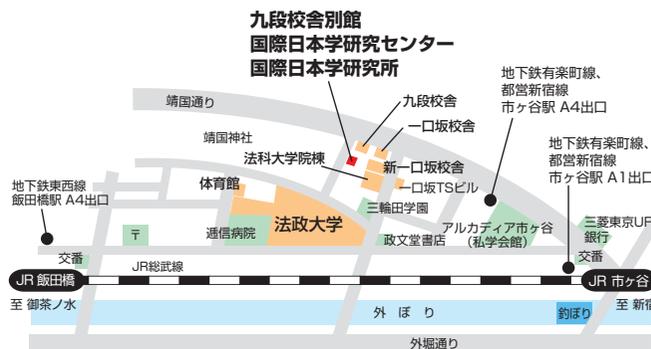


利用条件

- どなたでも閲覧できます。
- 本学関係者以外の方ご利用には、原則紹介状が必要になります。指導教授（またはそれに代わる機関）、それ以外の方は研究者または公的機関（図書館等）の紹介状をお持ちください。
- 利用を希望される方は希望日時を予め必ずご連絡ください。
- 貸出は行っていません。（コピー可）

利用日・利用時間

- 祝日を除く月曜日から金曜日
- 上記にかかわらず、大学の冬季休暇期間（12月下旬から1月上旬）および入学試験期間（2月上旬から下旬）は原則として利用できません。また、夏季休暇期間（8月から9月中旬）は利用可能日が制限されます。
- 利用時間は9時30分から16時30分（11時30分から12時30分までは昼休み）です。



法政大学国際日本学研究中心・国際日本学研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3 九段校舎別館1F
TEL. 03-3264-9682 FAX. 03-3264-9884 E-mail: nihon@hosei.ac.jp

URL <http://aterui.i.hosei.ac.jp>

郵便物宛先 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学
国際日本学研究中心

国際日本学研究所

Hosei University Research Center for
International Japanese Studies

日本を世界に、世界を日本に

国際日本学研究所長 安孫子 信



本研究所は、「国際日本学」をめぐる研究事業が、文部科学省高度化推進事業(学術フロンティア)および21世紀COE(Center Of Excellence -卓越した研究拠点-)の二プログラムに採択されたのを受けて、2002年に設立されました。それ以来、本学既設の野上記念能楽研究所、沖縄文化研究所とも連携しつつ、この新たな「国際日本学」の構築に精力的に取り組んでいます。

「日本学」そのものは外国産と言えます。ある言語圏で、日本の様々な文化現象を対象に行われている学問研究が、その言語圏で、まとめて「日本学」の名前で呼ばれています。そこには文学、哲学、社会学、人類学など人間科学の多様な観点が、共存しているのが普通です。「日本学」は、それぞれの地域で、そもそも学際的に開かれた存在なのです。このような各所での「日本学」を結びつけ、それにさらに国際的な性格を付与することで、「日本学」全体に新たな展開をもたらすことを目指して、法政大学の提唱の下に立ち上げられたのが「国際日本学」です。

「国際日本学」はこうして、日本文化をフィールドとする、学際的であると同時に国際的な、意欲的な学問研究の試みです。これによって、日本における日本研究の諸成果が、より多量により直接的に、外に発信されていくことになります。それは世界各所で「日本学」を活性化させるとともに、日本文化への新たな関心を喚起していくことになります。

「国際日本学」は他方で当の日本において重要な存在です。日本には、日本についての文学研究、歴史研究などがそれぞれ独立にあっても、学際的な「日本学」は存在していませんでした。そしてまた、日本における日本研究は、「国文学」、「国史学」といった名前が示すように、とく内にもこる傾向にありました。「国際日本学」は、そのような日本における日本研究を、学際的かつ国際的に開いていく使命を持ちます。このように二重に開くことで、「国際日本学」は、グローバル化が進行する国際世界において、日本文化の特殊性と普遍性を再発見していくことを目指しています。

現在、本研究所では、国際シンポジウム、研究集会などを通じて、内外の研究者とともに、以上の「国際日本学」の研究活動を活発に展開しています。その研究成果は、機関誌『国際日本学』始めとする各種の出版物を通して、またwebサイト(<http://aterui.hosei.ac.jp/>)で、広く公開されています。

またこのような「国際日本学」を学ぶ場として、既存の大学院人文科学研究科・社会科学研究科の5専攻(日本文学・日本史学・地理学・政治学・社会学)を足場に、研究所にいわば併設の形で、「国際日本学インスティテュート」(修士課程・博士課程)が立てられていて、内外の学生たちが切磋琢磨しつつ、共に学んでいます。

国際日本学は日本研究を国際的に、また学際的に開く試みです。国際的には、日本研究は多くの場合に、異文化の研究として行われています。そうだとすれば、国際日本学は、ある意味で、日本文化を異文化として見る姿勢を取り入れること、とも言い換えることができるでしょう。本研究所では現在、<異文化研究としての「日本学」>という指針を掲げて、その下で以下の四つのサブプロジェクトを遂行しています。

サブ・プロジェクト① 異文化研究としての「国際日本学」の構築

異文化研究には、対象となる文化を、異なる意味コードを跨いで翻訳する作業が不可欠です。ところで翻訳についてはとくかく、真意を曲げてしまうといった消極面が言われることとなります。しかし本当にそうなのか。国際日本学は、翻訳をむしろ新たな価値を生み出す積極的なものと見なしていくとします。異文化研究の中心的作業をこの翻訳と見て、翻訳の積極的意味を、実例も用いて探っていくのがこのサブプロジェクトです。(研究実績—国際シンポジウム「翻訳の不可能性をめぐって」、国際シンポジウム「日本文化の中の天皇—天皇とは何か」、その他)。



▲フランス・アルザス欧州日本学研究所(cejea)でのシンポジウム

サブ・プロジェクト② 異文化としての日本

中国文化・韓国文化と日本文化には歴史的に見て、漢字の使用や儒教の受容といった多くの共通点が存在しています。それらの間で翻訳は必要だとしても、翻訳は容易になされるように見えます。しかし本当にそうなのか。国際日本学は、東アジアの三文化についても、まずはそこに異文化としての質の差異を見極めようとしています。同質といわれる東アジアにおいて異質を探り、そのようにして、異質の理解としての相互理解を模索するのがこのサブプロジェクトです。(研究実績—月例研究会「東アジア文化研究会」、その他)



▲月1回開催している東アジア文化研究会

サブ・プロジェクト③ 日本の中の異文化

日本文化については単一性がとくかく言われます。とくに明治以降、標準語の採用が象徴する国内文化の平準化が進み、国内で翻訳といったことは問題とならないことになっています。しかし本当にそうなのか。国際日本学は琉球諸島や東北・北海道といった日本のいわば辺境地域に異文化を探り、日本文化が多様で重層的であることを示そうとします。外からというのではなく、内からも、異文化



▲青森市で行われたシンポジウム

研究によって日本研究を開いていくというのがこのサブプロジェクトです。(研究実績—『『日本の中の異文化』合同研究会』、その他)

サブ・プロジェクト④ 電子図書館システムの構築

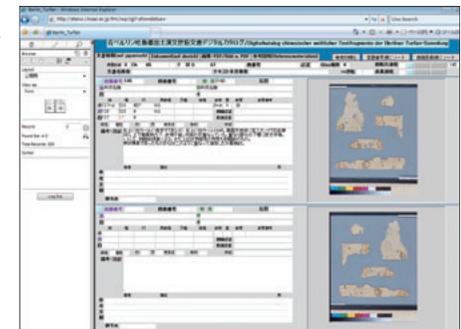
以上のサブプロジェクトはそれぞれ自身、内外の研究者との共同作業で実行されています。それを支える研究・研究者情報の共有化のためのデータベースの整備と構築も、本研究にとっては欠かせない作業となっています。(研究実績—北方史総合研究文献目録データベース、日本古代史関係研究文献目録データベース、その他)



▲電子図書館・データサービスのホームページ
<http://aterui.hosei.ac.jp/tabid/277/Default.aspx>

データベースサービス

- ◆データベースサービスでは、国際日本学研究所・能楽研究所・沖縄文化研究所に所蔵されている貴重図書類の画像を比較的高精度で提供しています。
- ◆北方史総合研究文献目録データベースでは、古代から近世にいたる北方史関係の研究文献目録を提供しています。時代を超えた串刺し検索もできるようになっています。
- ◆考古学分野では北方史に関する発掘報告書のデータベースを構築中です。
- ◆在ベルリンの吐魯番出土漢文世俗文書の高精度画像付きデータベースも公開しています。現在、全文テキストについて準備中です。
- ◆世界の日本学研究者データベースも、今後国単位で公開



▲在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書デジタルカタログ